

リベラル鈴鹿 大窪 博 議員

学校区における危険箇所について

(質問) 未来を拓く子どもたちの大切な命と暮らしを、「安全安心が脅かされる危険な箇所」からどのように守るのか、現況と対策、今後の取り組みを伺う。

(答弁) 学校はもとより、地域、保護者、ボランティアの方々の協力を得ながら、見守りなどの推進を図り、危険な箇所などの事故を

予防している。

また、生徒会やPTAにおいても、危険箇所マップなどを作成し、児童生徒への注意喚起を図っている。

地域からの要望があれば、「ここは危ない」や「遊ぶな、危険」などの注意喚起の看板を提供している。

今後は、安全を守る環境整備に向けて、安全教育の推進を地域住民と学校、行政が一体となって進めていく。

緑風会 藪田 啓介 議員

市民の安心安全について

(質問) 近年、救急車による搬送が増えてきているが、本市における入院を必要としない軽症搬送者が多いのはなぜか。救急出動件数が増え続ける中で、市民への啓発はどうなっているのか。また、地域の防災に不足してはならない消防団員が全国的に不足してきていると聞くが、本市の状況は。消防団員の処遇と

地域で支える仕組みはどうか。

(答弁) 救急搬送件数は平成29年中9,292件で前年より566件増加している。本市における救急搬送者の中での軽傷率は約6割であるが、迅速な搬送で軽症となる場合もあるので、かかりつけ医を持っていただく重要性などを啓発していく。消防団員の充足率は、定数455名に対し99.3%で全国・県平均を上回っているが、今後も現在市内に81店舗ある「みえ消防団応援の店」の取り組みを推進するなど、他に代替性のない消防団組織の維持に努める。

無所属の会 永戸 孝之 議員

社会、経済の変化に対応する、今後の自治体経営のあり方

(質問) 本市では、職員の人材育成の柱として、「鈴鹿市人材育成基本方針」に基づき人材育成を実施し、平成25年4月にアンケートが実施されたが、自分の能力が生かされていない、やりがいを感じていないという結果が顕著であった。

奈良県生駒市の元市長は、管理職若返り人

事制度など思い切った制度改革を断行しており、その他自治体でも意識改革組織活性化のための制度改革を実施している。本市の職員意識改革につなげる新たな方策は。

(答弁) 平成27年人材育成基本方針の改訂により課題の解消に努めた。目指す職員像では、「挑戦者である」を明確に掲げ、困難な課題に果敢にチャレンジし、合理的改善を求めるものであり、若手職員の積極的な管理職登用を図る。若手職員の積極的なチャレンジ精神は、組織の活性化に大きく寄与すると考えている。

鈴鹿の風 後藤 光雄 議員

観光入込客数の増加目標について

(質問) ①新たなシティセールス戦略の狙いは。②地域資源活用の取り組みで、市外で展開された事業を市内で開催してもらえないか。③鈴鹿墨を使って硯で磨くという習字の授業を行っている小学校は何校か。また、愛着と誇りを持たすための取り組みとは。④取り組みに職員の連携が必要ではないか。

(答弁) ①外部との交流に加えて、市民相互の交流を促進するため、市民に向けたプロモーションを意図した活動を含め「市に愛着と誇りを持ち、住み続けたい、あるいは応援したいと感じていただく方を増やす取組」とした。②本市の魅力ある地域資源を市外、市内に向けてさまざまな機会を通じてPRしていく。③墨の使用は9校。まちの魅力を知り、自信を持って鈴鹿を語り、将来、主体的に地域社会で活躍できる人材を育成したい。④庁内組織横断的に柔軟な取り組みを展開していく。